

は、「入れ墨」のある率と「指つめ」のある率は、それぞれ病院群：非病院群＝33：29.2（2007年では30：46）、6：8（2007年では3：15）であり、どちらが多いかと言うことでは、「入れ墨」は従来と逆転し、「指つめ」では2007年同様、従来と逆転していた。「根性焼き」のある率は非病院群で明らかに高かった（9：42）が、「自傷痕」のある割合は、15：17とほとんど同じであった。

従来、非病院群は、病院群よりも若くして薬物乱用を初め、精神病理学的リスクも高い者が多い傾向にある。ただし、現在ではこの2群の違いを明確に分けることは難しくなっている。

ただし、図5に示したように、この群は病院群よりも早い時期から「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使用してきた者が多い傾向にあり、薬物依存症の「重症」群でもある。しかし、この群でのこの1年間での注射経験率（図3）は低い。これらは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援グループの指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると考えられる。

E. HCV感染に関するハイリスク因子について

本調査研究では、調査の度にHCV感染率が高率である。そこで、病院群と非病院群の双方を併せて、HCV感染に関するハイリスク因子について検討した。

表9は、今回の検査を受ける際に、注射による薬物の使用はHIV感染・C型肝炎の主な感染経路になっていることを知っていたかどうか関する初回検査者の結果である。注射によるHIV感染の危険を知らなかった者はIDU経験者で有意に多かった。C型関連については有意差はなかった。

また、表10は「あぶり」を行った理由についての回答である。「好奇心」「針が手に入らなかったから」で有意差が認められた。IDU経験の有無に関わらず、「好奇心」「気軽にできるから」「注射は怖いから」の割合が高く、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者が極めて少ないことに留意する必要がある。

図6は、注射による薬物使用の経験の有無とHCV抗体陽性率との関係を示している。注射による薬物使用の経験がある者でのHCV抗体陽性率が明らかに高かった。

図7は、入れ墨の有無とHCV抗体陽性率との関係を示している。入れ墨のある者でのHCV抗体陽性率は明らかに高かった。

図8は、この1年間での風俗経験とHCV抗体陽性率との関係を示している。この1年間での風俗経験とHCV抗体陽性率との間には、明らかな関係は認められなかった。

図9は、年代とHCV抗体陽性率との関係を示している。年代が上がるほどHCV抗体陽性率が高くなることが明らかとなった。

表9 初回検査者におけるHIV/HCV感染と注射との関係を知らなかった者の割合。

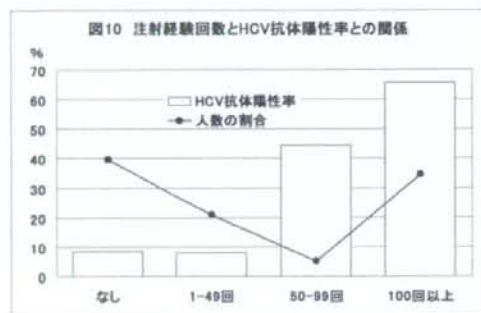
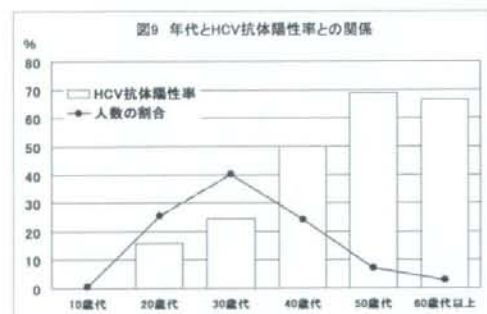
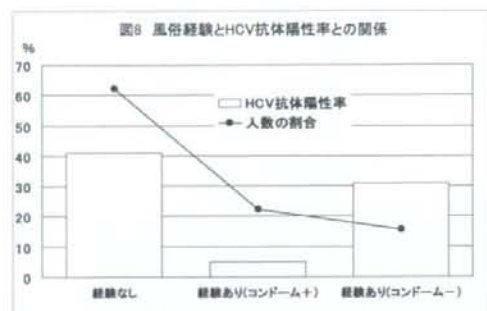
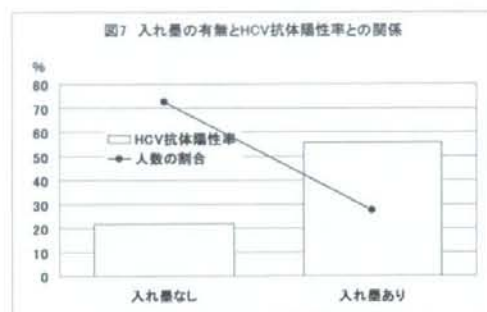
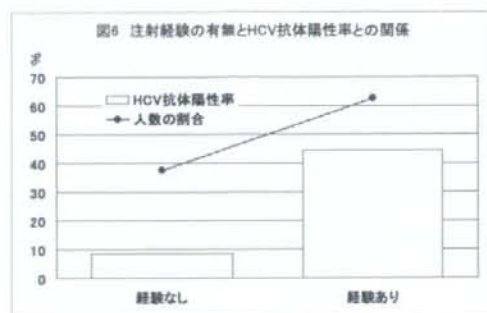
	HIVについて知らなかった者 *	C型肝炎について知らなかった者
IDU非経験者	13.3% (4/30)	20.7% (6/29)
IDU経験者	37.2% (29/78)	24.4% (19/78)

* : $p < 0.05$

表10 初回検査者における「あぶり」の理由

	IDU非経験者	IDU経験者
好奇心 *	10.0% (3/30)	30.8% (24/78)
注射は怖いから	20.0% (6/30)	14.1% (11/78)
気軽にできるから	16.7% (5/30)	16.7% (13/78)
回数を多くできるから	3.3% (1/30)	2.6% (2/78)
依存になりにくいと思ったから	10.0% (3/30)	7.7% (6/78)
針が手に入らなかったから *	0 (0/30)	11.5% (9/78)
HIV感染が気になったから	3.3% (1/30)	0% (0/78)
C型肝炎感染が気になったから	10.0% (3/30)	2.6% (2/78)
その他	6.7% (2/30)	9.0% (7/78)

* : $p < 0.05$



そこで、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無、風俗体験とそこでのコンドーム使用の有無を独立変数として、判別分析を行ってみた。その結果、正準判別関数では、固有値が0.558、Wilksのラムダが0.642 ($p < 0.000$) であり、正答率は76~86%と、モデルとしては良好とは言えなかった。しかし、構造行列では、注射の回数:0.814、入れ墨:0.471、年齢:0.439、風俗体験とそこでのコンドーム使用状況:-0.141であり、この順に判別に寄与する程度が大きいが判別した(2006年、2007年調査では、入れ墨と年齢の順が逆であった)。

一般人口における年齢とHCV抗体陽性率と間には、高齢になるほどHCV抗体陽性率が高まるという、年齢による累積効果とでも言うべき現象が存在するようであるが、図9に見る本調査の対象群における年代とHIV抗体陽性率との関係は、その現象の範囲を超える上昇ぶりである。これは、注射針の共有が同世代の薬物乱用・依存者間で繰り返されてきた結果ではないかと考えられる。

ちなみに、図10は、これまでの注射による薬物使用回数とHCV抗体陽性率との関係を示している。これまでの注射回数というものは信頼性に欠ける面があり、確かなことは、これまでに注射による薬物乱用の経験が無いという場合と、100回以上と言って良いほど多数回の注射経験があるという2点であろうと推定できる。従って、図10の意味するところは、注射回数が増えれば増えるほど、HCV抗体陽性率は高まると解釈して問題はないであろう。

F. 結論

① 薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

② 研究は「1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」(病院群)、「2. 医療機関を受診していない薬物依存者調査」(非病院群)の2部門調査から成っている。各研究においては、対象者の同意の下で、調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。

③ 薬物依存症者におけるHIV感染の関心が低いと考えられるため、今年度は、「ぶれいす東京」の協力を得て、ダルク等グループを対象に、「薬物依存症者に対するHIV感染に関するワークショップ」(8月22日)を開催した。16ダルク+他の2グループ、計32名の参加があり、好評であった。

④ HIV抗体陽性者は、1993年より開始された一連の本調査において、2001年にタイでのCSWとの性交渉により感染したと推定された30歳の覚せい剤依存症男性1名が始めてであった。2002年調査では2名特定され、それは、注射による薬物使用者(IDUs)である性的伴侶から感染したと考えられる31歳の覚せい剤依存者(女性)1名とMSM間での性行為により感染したと考えられる27歳の多剤依存者(男性)1名であった。2004年には、33歳女性が特定されたが、それはCSWの経験がある覚せい剤依存症者であった。その後の本調査ではHIV感染者はなかったが、今回の2008年調査で2名の覚せい剤依存症/精神病患者でHIV感染が確認されたが、二人ともゲイであり、注射の既往等より感染経路はMSM間での性行為と推定された。

我が国ではゲイでのHIV感染者が統計上は多いが、5Meo-DIPT等の脱法ドラッグ(当時)が麻薬ないしは(大臣)指定薬としての規制を受けたことが、ゲイコミュニティにおける使用薬物に変化をもたらしている可能性が否定

できない。したがって、今後も同種のケースが出てくる可能性があり、ゲイコミュニティにおける薬物問題をこれまで以上に考えてゆく必要がありそうである。

⑤ 本調査研究によるこれまでのHIV抗体陽性者の感染経路より、薬物乱用・依存者のHIV感染は、性行為による感染の可能性と重複しており、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

⑥ 病院群での覚せい剤関連患者では、HCV抗体陽性率が42%と高く、79%の者に、これまでに注射による薬物使用の既往(以下、注射の既往)があり、この1年間でも48%の者に注射の既往があった。また、65~66%の者にシリンジ及び針の生涯共用経験があり、最近1年間に限っても、16%の者にシリンジ及び針の共用経験があった。経年的には注射の1年経験率、注射針の1年共用経験率は低下を示しており、その背景には「あぶり」の普及があると推測される。

⑦ 病院群における「あぶり」の経験率は2000年以降、定着したようである。「あぶり」を行った理由としては、「好奇心」「注射は怖いから」「気軽にできるから」の割合が高く、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者は極めて少ないことが明らかになった。この「あぶり」は、HIV感染と直接の関連はないが、その気軽さ及びファッショナブルな感覚から覚せい剤乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の観点からは決して歓迎される形態とは言えない。同時に、その気軽さ及びファッショナブルさから、性行動と結びつきやすい傾向が伺え、今後、薬物使用と性行動との関係に関する対応が必要である。

⑧ 非病院群の覚せい剤関連患者でのHCV抗体陽性率は37.5%であり、病院群の42%よりは低かった。

⑨ 非病院群は病院群よりも早い時期から「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使用してきた者が多い傾向にあり、薬物依存症の「重症」群でもある。しかし、この群での、この1年間での注射経験率病院群でのそれよりも低い。それは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援グループの指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの

表れであると考えられる。

⑩ 病院群、非病院群に関係なく、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無、風俗体験とそこでのコンドーム使用の有無を独立変数として、判別分析を行った。その結果、正答率は76～86%とモデルとしては良好とはいえないが、正準判別関数では、固有値が0.558、Wilksのラムダが0.642 ($p<0.000$) であり、構造行列での関数は、注射の回数:0.814、入れ墨:0.471、年齢:0.439、風俗体験とそこでのコンドーム使用状況:-0.141であり、この順に判別に寄与する程度が大きいことが判明した。

⑪ 薬物乱用・依存者のHIV感染は、注射行為のみならず、性行為による感染の可能性と重複していることが多そうで、今後も、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

G. 発表論文

1. 和田 清、尾崎 茂、近藤あゆみ、薬物乱用・依存の今日的状況と政策的課題。日本アルコール・薬物医学会雑誌。(2008) 43: 120-131

H. 学会発表 なし

I. 知的所有権の取得状況 なし

表1【医療機関を受診した薬物依存者】の属性・血清検査・身体所見(%)

		F12	F13	F15	F18	F19	全体
		大麻	鎮静睡眠薬	覚せい剤	揮発性溶剤	多剤	
		2[1.2]	22[13.2]	109[65.3]	14[8.4]	20[12.0]	167[100]
性別							
	男	2(100)	14(63.6)	88(80.7)	14(100)	18(90.0)	136(81.4)
	女	0(0)	8(36.4)	21(19.3)	0(0)	2(10.0)	31(18.6)
年齢				n=108			n=166
	10歳代	0(0)	0(0)	1(0.9)	0(0)	0(0)	1(0.6)
	20歳代	1(50.0)	6(27.3)	25(23.1)	4(28.6)	6(30.0)	42(25.3)
	30歳代	1(50.0)	7(31.8)	38(35.2)	8(57.1)	11(55.0)	65(39.2)
	40歳代		7(31.8)	31(28.7)	1(7.1)	3(15.0)	42(25.3)
	50歳代		2(9.1)	9(8.3)	1(7.1)		12(7.2)
	60歳代			4(3.7)			4(2.4)
	平均年齢±SD	25.5 ±7.8	36.4 ±8.3	37.6 ±10.2	34.1 ±7.0	33.4 ±6.7	36.5 ±9.4
現在の配偶歴(%)		n=1	n=21	n=87	n=5	n=17	n=131
	未婚		85.7	51.7	80.0	52.9	58.0
	既婚	100	4.8	18.4	0	35.3	18.3
	離婚		9.5	26.4	20.0	11.8	21.4
	死別		0	3.4	0	0	2.3
	離婚歴あり	100	9.5	35.6	20.0	17.6	28.2
血清検査(%)							
	HIV抗体陽性	0(0/2)	0(0/22)	1.9(2/108)	0(0/14)	0(0/20)	1.2(2/166)
	HCV抗体陽性	0(0/2)	0(0/22)	42.1(45/107)	28.6(4/14)	26.3(5/19)	32.9(54/164)
	HBs抗原陽性	0(0/2)	0(0/22)	0.9(1/107)	0(0/14)	0(0/19)	0.6(1/164)
	HBs抗体陽性	0(0/1)	0(0/21)	2.9(2/68)	0(0/5)	6.7(1/15)	2.7(3/110)
	HBc抗体陽性	0(0/1)	0(0/20)	2.0(1/49)	0(0/3)	0(0/11)	1.2(1/84)
	TPHA陽性率	0(0/2)	0(0/22)	2.8(3/107)	0(0/14)	0(0/19)	1.8(3/164)
性病既往(自己申告)(%)							
	モジラミ	0(0/1)	0(0/21)	1.1(1/88)	0(0/5)	5.9(1/17)	1.5(2/132)
	淋病	0(0/1)	0(0/21)	8.0(7/88)	0(0/5)	11.8(2/17)	6.8(9/132)
	クラミジア	0(0/1)	0(0/21)	8.0(7/88)	0(0/5)	11.8(2/17)	6.8(9/132)
	梅毒	0(0/1)	0(0/21)	3.4(3/88)	0(0/5)	0(0/17)	2.3(3/132)
身体所見(%)							
	輸血の既往あり	0(0/1)	0(0/21)	1.2(1/86)	0(0/5)	0(0/17)	0.8(1/130)
	歯の著明不良あり	0(0/1)	0(0/21)	20.5(18/88)	80.0(4/5)	17.6(3/17)	18.9(25/132)
	注射痕あり	0(0/1)	0(0/21)	39.8(35/88)	0(0/5)	17.6(3/17)	28.8(38/132)
	入れ墨あり	0(0/1)	4.8(1/21)	33.0(29/88)	0(0/5)	35.3(6/17)	27.3(36/132)
	指つめあり	0(0/1)	0(0/21)	5.7(5/88)	0(0/5)	0(0/17)	3.8(5/132)
	根性焼きあり	0(0/1)	0(0/21)	9.1(8/88)	20.0(1/5)	23.5(4/17)	9.8(13/132)
	自傷痕あり	0(0/1)	9.5(2/21)	14.8(13/88)	40.0(2/5)	41.2(7/17)	18.2(24/132)

表2【医療機関を受診した薬物依存者】の注射行動・性行動(%)

	F12 大麻	F13 鎮静睡眠薬	F15 覚せい剤	F18 揮発性溶剤	F19 多剤	全体
	2[1.2]	22[13.2]	109[65.3]	14[8.4]	20[12.0]	167[100]
<u>これまでに(%)</u>						
注射経験あり	0(0/1)	0(0/21)	79.3(69/87)	0(0/5)	52.9(9/17)	59.5(78/131)
シリンジ 共用経験+	0(0/1)	0(0/21)	66.3(57/86)	0(0/5)	35.3(6/17)	48.5(63/130)
針の共用経験+	0(0/1)	0(0/21)	65.1(56/86)	0(0/5)	35.3(6/17)	47.7(62/130)
注射回数						
なし	100(1/1)	0(0/21)	21.4(18/84)	100(5/5)	47.1(8/17)	41.4(53/128)
1~49回	0(0/1)	0(0/21)	26.2(22/84)	0(0/5)	29.4(5/17)	21.1(27/128)
50~99回	0(0/1)	0(0/21)	8.3(7/84)	0(0/5)	17.6(3/17)	7.8(10/128)
100回以上	0(0/1)	0(0/21)	44.0(37/84)	0(0/5)	5.9(1/17)	29.7(38/128)
<u>最近1年間で(%)</u>						
注射経験あり	0(0/1)	0(0/21)	48.3(42/87)	0(0/5)	23.5(4/17)	35.1(46/131)
シリンジ 共用経験+	0(0/1)	0(0/21)	16.3(14/86)	0(0/5)	17.6(3/17)	13.1(17/130)
針の共用経験+	0(0/1)	0(0/21)	16.3(14/86)	0(0/5)	11.8(2/17)	12.3(16/130)
注射回数						
なし	100(1/1)	100(21/21)	52.9(45/85)	100(5/5)	76.5(13/17)	65.9(85/129)
1~49回	0	0	41.2(35/85)	0(0/5)	23.5(4/17)	30.2(39/129)
50~99回	0	0	4.7(4/85)	0(0/5)	0(0/17)	3.1(4/129)
100回以上	0	0	1.2(1/85)	0(0/5)	0(0/17)	0.8(1/129)
<u>これまでに「あぶり」の経験</u>						
	0(0/1)	0(0/21)	64.4(56/87)	20.0(1/5)	70.6(12/17)	52.7(69/131)
<u>この1年間で「あぶり」の経験あり(%)</u>						
	0(0/1)	0(0/21)	48.3(42/87)	0(0/5)	64.7(11/17)	40.5(53/131)
<u>この1年間でどちらが多い</u>						
注射	0.0	0	37.9(33/87)	0(0/5)	11.8(2/17)	26.7(35/131)
「あぶり」	0.0	0	42.5(37/87)	0(0/5)	47.1(8/17)	34.4(45/131)
同程度	0.0	0	1.1(1/87)	0(0/5)	5.9(1/17)	1.5(2/131)
どちらもなし	100(1/1)	100(21/21)	18.4(16/87)	0(0/5)	35.3(6/17)	37.4(49/131)
<u>「風俗」での性接触あり(最近1年間)</u>						
なし	0(0/1)	40.0(8/20)	64.4(56/87)	80.0(4/5)	70.6(12/17)	61.5(80/130)
あり(常にコンドーム+)	100(1/1)	60.0(12/20)	19.5(17/87)	20.0(1/5)	17.6(3/17)	26.2(34/130)
あり(コンドーム-のことあり)	0(0/1)	0(0/20)	16.1(14/87)	0(0/5)	11.8(2/17)	12.3(34/130)
<u>「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間)(%)</u>						
なし	100(1/1)	100(21/21)	88.5(77/87)	100(5/5)	76.5(13/17)	89.3(117/131)
あり(常にコンドーム+)	0	0	8.0(7/87)	0.0	11.8(2/17)	6.9(9/131)
あり(コンドーム-のことあり)	0.0	0	3.4(3/87)	0.0	11.8(2/17)	3.8(5/131)
<u>国内で外国人との性接触あり(最近1年)</u>						
なし	100(1/1)	90.5(19/21)	77.0(67/87)	100(5/5)	82.4(14/17)	80.9(106/131)
あり(常にコンドーム+)	0	9.5(2/21)	21.8(19/87)	0.0	17.6(3/17)	18.3(24/131)
あり(コンドーム-のことあり)	0	0	1.1(1/87)	0	0(0/17)	0.8(1/131)
<u>性接触ありの場合の相手</u>						
「風俗」で	—	100(2/2)	90.0(18/20)	—	66.7(2/3)	88.0(22/25)
「風俗」以外で	—	0	10.0(2/20)	—	0(0/3)	8.0(2/25)
両方で	—	0	0(0/20)	—	33.3(1/3)	4.0(1/25)
<u>海外渡航歴のある者(最近1年間)(%)</u>						
上記のうち	0(0/1)	0(0/21)	2.3(2/87)	0(0/5)	11.8(2/17)	3.1(4/131)
渡航先での薬物使用	—	—	0(0/2)	—	100(2/2)	50.0(2/4)
渡航先での性接触	—	—	0(0/2)	—	100(2/2)	50.0(2/4)

表3【医療機関を受診した薬物依存者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見

		これまでに 注射経験なし	これまでに注射経験あり			入れ墨	
			1年間にはなし	1年間にもあり	不明	なし	あり
		53[40.2]	32[24.2]	46[34.8]	1[0.8]	96[72.7]	36[27.3]
性別							
	男	40(75.5)	25(78.1)	35(76.1)	1(100)	70(69.3)	31(30.7)
	女	13(24.5)	7(21.9)	11(23.9)	0(0)	26(83.9)	5(16.1)
年齢						n=95	
	10歳代	0[0]	0[0]	1[100]		1[100]	0[0]
	20歳代	20[57.1]	3[8.6]	12[34.3]		30[85.7]	5[14.3]
	30歳代	19[38.0]	14[28.0]	16[32.0]	1[2.0]	38[76.0]	12[24.0]
	40歳代	12[35.3]	11[32.4]	11[32.4]		22[64.7]	12[35.3]
	50歳代	2[25.0]	2[25.0]	4[50.0]		3[37.5]	5[62.5]
	60歳以上	0[0]	2[66.7]	1[33.3]		1[33.3]	2[66.7]
	平均年齢±SD	33.7±7.6	40.2±10.0	36.3±10.0	39	34.6±8.3	40.4±10.7
現在の配偶歴						n=95	
	未婚	75.5	46.9	45.7		64.2	41.7
	既婚	18.9	15.6	19.6		22.1	8.3
	離婚	5.7	37.5	28.3		13.7	41.7
	死別	0	0	6.5		0	8.3
	離婚歴あり	5.7	43.8	43.5		15.8	61.1
血清検査(%)							
	HIV抗体陽性率	0(0/53)	0(0/31)	2.2(1/46)	100(1/1)	2.1(2/96)	0(0/35)
	HCV抗体陽性率	7.8(4/51)	34.4(11/32)	53.3(24/45)	0(0/1)	20.2(19/94)	57.1(20/35)
	HBs抗原陽性率	0(0/51)	0(0/32)	0(0/45)	0(0/1)	0(0/94)	0(0/35)
	HBs抗体陽性率	0(0/50)	3.2(1/31)	7.1(2/28)	0(0/1)	1.2(1/83)	7.4(2/27)
	HBc抗体陽性率	0(0/42)	0(0/22)	5.3(1/19)	0(0/1)	1.6(1/62)	0(0/22)
	TPHA陽性率	2.0(1/51)	3.1(1/32)	2.2(1/45)	0(0/1)	2.1(2/94)	2.9(1/35)
性病既往(自己申告)(%)							
	毛ジラミ	0	3.1(1/31)	2.2		1	2.8
	淋病	0	21.9	4.3		2.1	19.4
	クラミジア	1.9	18.8	4.3		2.1	19.4
	梅毒	1.9	3.1	2.2		2.1	2.8
身体所見(%)							
	輸血の既往あり	0	3.1(1/31)	0(0/45)		1.1(1/95)	0(0/35)
	歯の著明不良あり	11.3	15.6	30.4		18.8	19.4
	注射痕あり	0	15.6	71.7		22.9	44.4
	入れ墨あり	5.7	46.9	39.1			
	指づめあり	0	3.1	8.7		0	13.9
	慢性焼きあり	9.4	9.4	10.9		8.3	13.9
	自傷痕あり	13.2	34.4	13		12.5	33.3

表4【医療機関を受診した薬物依存者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

	これまでに			入れ墨	
	注射経験なし	1年間にはなし	1年間にもあり	なし	あり
	53[40.5]	32[24.4]	46[35.1]	95[72.5]	36[27.5]
これまでに (%)					
注射経験あり	0	100	100	47.4	91.7
シリンジ 共用経験あり	0	78.1	84.4 (38/45)	33.0 (31/94)	88.9
針の共用経験あり	0	45	84.4 (38/45)	31.9 (30/94)	88.9
注射経験の注射回数					
なし	100	0	0	54.3 (50/92)	8.3
1~49回	0	58.6 (17/29)	21.7	19.6 (18/92)	25.0
50~99回	0	10.3 (3/29)	15.2	7.6 (7/92)	8.3
100回以上	0	31.0 (9/29)	63.0	18.5 (17/92)	58.3
最近1年間で (%)					
注射経験あり	0	0	100	39.5	50.0
シリンジ 共用経験	0	0	37.8 (17/45)	11.7	16.7
針の共用経験	0	0	35.6 (16/45)	11.7	13.69
注射経験の注射回数					
なし	100	100	0	72.0 (67/93)	50.0 (18/36)
1~49回	0	0	88.6 (39/44)	24.7 (23/93)	44.4 (16/36)
50~99回	0	0	9.1 (4/44)	2.2 (2/93)	5.6 (2/36)
100回以上	0	0	2.3 (1/44)	1.1 (1/93)	0 (0/36)
これまでに「あぶり」の経験あり	43.4	56.3	60.9	49.5	61.1
この1年間で「あぶり」の経験あり (%)	41.5	43.8	37.0	42.1	36.1
この1年間でどちらが多いか?					
注射	0	0	76.1	21.1	41.7
「あぶり」	41.5	43.8	19.6	36.8	27.8
同程度	0	0	4.3	1.1	2.8
どちらもなし	58.5	56.3	0	41.1	27.8
「風俗」での性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	53.8 (28/52)	68.8	65.2	62.8 (59/94)	58.3
あり (常にコンドーム+)	46.2 (24/52)	6.3	17.4	30.9 (29/94)	13.9
あり (コンドーム-のことあり)	0 (0/52)	25.0	17.4	6.4 (6/94)	27.8
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	98.1	93.8	76.1	92.6	80.6
あり (常にコンドーム+)	0	3.1	17.4	5.3	11.1
あり (コンドーム-のことあり)	1.9	3.1	6.5	2.1	8.3
国内で外国人との性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	79.2	78.1	84.8	84.2	72.2
あり (常にコンドーム+)	20.8	21.9	13.0	15.8	25
あり (コンドーム-のことあり)	0	0	2.2	0	2.8
性接触ありの場合の相手					
「風俗」で	100 (11/11)	100 (7/7)	57.1 (4/7)	93.3 (14/15)	80.0 (8/10)
「風俗」以外で	0 (0/11)	0 (0/7)	28.6 (2/7)	6.7 (1/15)	10.0 (1/10)
不明	0 (0/11)	0 (0/7)	14.3 (1/7)	0 (0/15)	10.0 (1/10)
外渡航歴のある者 (最近1年間)	1.9	0	6.5	2.1	5.6
上記のうち					
渡航先で薬物使用のあった者	0 (0/1)	—	66.7 (2/3)	0 (0/2)	100 (2/2)
渡航先で性交渉のあった者	0 (0/1)	—	66.7 (2/3)	0 (0/2)	100 (2/2)

表5【医療機関を受診していない薬物依存者】の属性・血清検査・身体所見(%)

		主診断 (ICD-10)						全体
		F10	F12	F13	F15	F18	F19	
		アルコール	大麻	鎮静睡眠剤	覚せい剤等	揮発性溶剤	多剤	
		6[10.0]	2[3.3]	4[6.7]	24[40.0]	5[8.3]	19[31.7]	60[100]
性別								
	男	6(100)	2(100)	4(100)	24(100)	5(100)	19(100)	60(100)
	女							
年齢							n=18	n=59
	20歳代	1(16.7)	1(50.0)	2(50.0)	1(4.2)		10(55.6)	20(22.0)
	30歳代	2(33.3)	1(50.0)	2(50.0)	14(58.3)	4(80.0)	3(16.7)	45(49.5)
	40歳代	1(16.7)			6(25.0)		5(27.8)	17(18.7)
	50歳代	1(16.7)			2(8.3)	1(20.0)		8(8.8)
	60歳代	1(16.7)			1(4.2)			1(1.1)
	平均年齢±SD	44.8 ±14.4	32.0 ±5.7	32.0 ±5.4	40.1 ±8.5	39.8 ±10.8	31.2 ±7.5	36.5 ±9.9
現在の配偶歴(%)								
	未婚	100	100	75.0	70.8	60.0	73.7	75.0
	既婚							
	離婚			25.0	29.2	40.0	26.3	25.0
	死別							
	離婚歴あり	0	0	25.0	29.2	40.0	26.3	25.0
血清検査(%)								
	HIV抗体陽性	0	0	0	0	0	0	0
	HCV抗体陽性率	33.3	50.0	0	37.5	0	42.1	33.3
	HBs抗原陽性率	0	0	0	0	0	0	0
	HBs抗体陽性率	16.7	0	25.0	12.5	0	5.3	10.0
	HBc抗体陽性率	33.3	0	25.0	16.7	0	0	11.7
	TPHA陽性率	0	0	0	8.3	0	0	3.3
性病既往(自己申告)(%)								
	毛ジラミ	0	0	0	4.2	0	10.5	5.0
	淋病	0	0	25.0	0	0	10.5	5.0
	クラミジア	0	0	25.0	4.2	20.0	10.5	8.3
	梅毒	0	0	0	4.2	0	0	1.7
身体所見(%)								
	輸血の既往あり	20.0(1/5)	0(0/1)	0	8.3	20.0	5.6(1/18)	8.8(5/57)
	歯の著明不良あり	83.3	50.0	50.0	50.0	40.0	26.3	45.0
	注射痕あり	0	50.0	25.0	45.8	0	31.6	31.7
	入れ墨あり	16.7	100	0	29.2	40.0	26.3	28.3
	指つめあり	0	0	0	8.3	0	5.3	5.0
	根性焼きあり	16.7	50.0	25.0	41.7	60	26.3	35.0
	自傷痕あり	0	100	50.0	16.7	40	21.1	23.3

表6【医療機関を受診していない薬物依存者】の注射行動・性行動(%)

	ICD-10							
	F10	F12	F13	F15	F18	F19	全体	
	アルコール	大麻	鎮静催眠剤	覚せい剤等	揮発性溶剤	多剤		
	6[10.0]	2[3.3]	4[6.7]	24[40.0]	5[8.3]	19[31.7]		60[100]
これまでに(%)						n=18		n=59
注射経験あり	33.3	50.0	25.0	91.7	40.0	66.7		67.8
シリンジ 共用経験+	16.7	50.0	0.0	87.5	40.0	55.6		59.3
針の共用経験+	16.7	50.0	0.0	87.5	20.0	55.6		57.6
注射回数				n=23		n=11		n=51
なし	66.7	50.0	75.0	8.7	60.0	50.0		36.5
1～49回	33.3	0.0	25.0	17.4	40.0	8.3		19.6
50～99回	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0
100回以上	0.0	50.0	0.0	73.9	0.0	41.7		44.2
最近1年間で(%)						n=18		n=59
注射経験あり	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	16.7		10.2
シリンジ 共用経験+	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	11.8(2/17)	8.6(5/58)	
針の共用経験+	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	11.8(2/17)	8.6(5/58)	
注射回数						n=15		n=56
なし	100.0	100.0	100.0	87.5	100.0	100.0		94.6
1～49回	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0		1.8
50～99回	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0
100回以上	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0		3.6
これまでに「あぶり」の経験あり(%)						n=17		n=58
	33.3	0.0	25.0	66.7	0.0	76.5		55.2
この1年間で「あぶり」の経験あり(%)						n=17		n=58
	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	17.6		8.6
この1年間ではどちらが多いか？(%)						n=17		n=58
注射	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	17.6		8.6
「あぶり」	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8		3.4
同程度	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0		1.7
どちらもなし	100.0	100.0	100.0	87.5	100.0	70.6		86.2
「風俗」での性接触あり(最近1年間)(%)						n=18		n=58
	n=5							
なし	80.0	50.0	50.0	79.2	60.0	50.0		65.5
あり(常にコンドーム+)	0.0	0.0	25.0	12.5	20.0	11.1		12.1
あり(コンドーム-のことあり)	20.0	50.0	25.0	8.3	20.0	38.9		22.4
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間)(%)						n=18		n=59
なし	83.3	50.0	50.0	70.8	100.0	55.6		67.8
あり(常にコンドーム+)	0.0	0.0	25.0	16.7	0.0	16.7		13.6
あり(コンドーム-のことあり)	16.7	50.0	25.0	12.5	0.0	27.8		18.6
国内で外国人との性接触あり(最近1年間)(%)								
なし	100	100	75.0	100	80.0	72.2		88.1
あり(常にコンドーム+)	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7		5.1
あり(コンドーム-のことあり)	0.0	0.0	25.0	0.0	20.0	11.1		6.8
性接触ありの場合の相手								
「風俗」で	0.0					80.0		41.7
「風俗」以外で	0.0				100.0	0.0		25.0
面方	0.0		100.0			20.0		8.3
海外渡航歴のある者(最近1年間)(%)								
	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	10.5		6.7
上記のうち 海外で薬物使用のあった者				0.0		0.0		0.0
海外で性交渉のあった者				0.0		100.0		50.0

表7【医療機関を受診していない薬物依存者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見

		これまでに 注射経験なし	これまでに注射経験あり		入れ墨	
			1年間にはなし	1年間にもあり	なし	あり
		20[33.9]	33[55.9]	6[10.2]	43[71.7]	17[28.3]
性別	男	20[33.9]	33[55.9]	6[10.2]	43[71.7]	17[28.3]
	女	0[0]	0[0]	0[0]	0[0]	0[0]
年齢					n=42	
	20歳代	6[40.0]	5[33.3]	4[26.7]	12[80.0]	3[20.0]
	30歳代	8[30.8]	16[61.5]	2[7.7]	16[61.5]	10[38.5]
	40歳代	2[18.2]	9[81.8]	0[0]	8[66.7]	4[33.3]
	50歳代	2[50.0]	2[50.0]	0[0]	4[100]	0[0]
	60歳以上	1[50.0]	1[50.0]	0[0]	2[100]	0[0]
	平均年齢±SD	37.6±12.0	38.0±8.9	29.2±4.1	37.7±10.9	35.3±6.6
現在の配偶歴						
	未婚	75.0	78.8	50.0	76.7	70.6
	既婚	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	離婚	25.0	21.2	50.0	23.3	29.4
	死別	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	離婚歴あり	25.0	21.2	50.0	23.3	29.4
血清検査(%)						
	HIV抗体陽性率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	HCV抗体陽性率	15.0	42.4	33.3	25.6	52.9
	HBs抗原陽性率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	HBs抗体陽性率	10.0	12.1	0.0	9.3	11.8
	HBc抗体陽性率	5.0	18.2	0.0	11.6	11.8
	TPHA陽性率	5.0	3.0	0.0	2.3	5.9
性病既往（自己申告）(%)						
	毛ジラミ	0.0	6.1	0.0	4.7	5.9
	淋病	5.0	6.1	0.0	4.7	5.9
	クラミジア	0.0	9.1	16.7	7.0	11.8
	梅毒	0.0	3.0	0.0	0.0	5.9
身体所見(%)						
	輸血の既往あり	10.5(2/19)	6.5(2/31)	16.7(1/6)	7.3(3/41)	12.5(2/16)
	歯の著明不良あり	45.0	51.5	16.7	51.2	29.4
	注射痕あり	15.0	42.4	33.3	20.9	58.8
	入れ墨あり	20.0	33.3	16.7	0.0	100.0
	指つめあり	0.0	9.1	0.0	4.7	5.9
	根性焼きあり	20.0	45.5	33.3	25.6	58.8
	自傷痕あり	25.0	21.2	16.7	16.3	41.2

表8【医療機関を受診していない薬物依存者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

	これまで			入れ墨	
	これまで 注射経験なし 20[33.9]	これまで 1年間にはな 33[55.9]	これまで 1年間にもあ 6[10.2]	なし 43[71.7]	あり 17[28.3]
これまで (%)					n=16
注射経験あり	0.0	100	100	62.8	81.3
シリンジ 共用経験あり		84.8	100.0	51.2	81.3
針の共用経験あり		81.8	100.0	51.2	75
注射経験の注射回数			n=4	n=37	n=14
なし	0.0	0.0	0.0	43.2	21.4
1~49回		32.1	25.0	18.9	21.4
50~99回		0.0	0.0	0.0	0.0
100回以上		67.9	75.0	37.8	57.1
最近1年間で (%)					n=16
注射経験あり	0.0	0.0	100.0	11.6	6.3
シリンジ 共用経験			n=5	n=42	n=16
			100.0	9.5	6.3
針の共用経験			n=5	n=42	n=16
			100.0	9.5	6.3
注射経験の注射回数			n=3	n=40	n=16
なし	0.0	0.0	0.0	95.0	93.8
1~49回			33.3	2.5	0.0
50~99回			0.0	0.0	0.0
100回以上			66.7	2.5	6.3
これまで「あぶり」の経験あり (%)					n=15
	21.1	69.7	83.3	55.8	53.3
この1年間で「あぶり」の経験あり (%)					n=15
	5.3	3.0	50.0	11.6	0.0
この1年間ではどちらが多いか?	n=19				n=15
注射	0.0	0.0	83.3	11.6	6.7
「あぶり」	5.3	3.0	0.0	4.7	0.0
同程度	0.0	0.0	16.7	2.3	0.0
どちらもなし	94.7	97.0	0.0	81.4	93.3
「風俗」での性接触あり (最近1年間) (%)					n=16
なし	n=18			n=42	n=16
	50.0	69.7	83.3	64.3	68.8
あり(常にコンドーム+)	22.2	9.1	0.0	14.3	6.3
あり(コンドームーのことあり)	27.8	21.2	16.7	21.4	25.0
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり (最近1年間)					n=16
なし	n=19				
	73.7	72.7	16.7	65.1	75.0
あり(常にコンドーム+)	5.3	12.1	50.0	18.6	0.0
あり(コンドームーのことあり)	21.1	15.2	33.3	16.3	25.0
国内で外国人との性接触あり (最近1年間) (%)					n=16
なし	n=19				
	89.5	90.9	66.7	88.4	87.5
あり(常にコンドーム+)	0.0	3.0	33.3	7.0	0.0
あり(コンドームーのことあり)	10.5	6.1	0.0	4.7	12.5
性接触ありの場合の相手					
「風俗」で	0.0	66.7	100.0	60.0	50.0
「風俗」以外で	50.0	0.0	0.0	20.0	0.0
両方で	50.0	33.3	0.0	20.0	50.0
海外渡航歴のある者 (最近1年)					
	10.0	6.1	0.0	7.0	5.9
上記のうち					
渡航先で薬物使用のあった	0.0	0.0		0.0	0.0
渡航先で性交渉のあった者	50.0	50.0		66.7	0.0

これまでの推移(1)

①精神科医療施設に入院した覚せい剤乱用・依存者調査(実人数) (複数回の者は、初回をカウント)

	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
HIV Ab 検査数	39	41	47	162	270	316	340	362	291	313	311	302	309	228	211	108
HIV Ab +	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0.3	0	0.3	0	0	0	1.9
HCV Ab +	53.8 21/39	65.1 28/43	43.6 24/55	46.1 82/178	43.6 127/291	53 165/317	43.2 153/354	42 153/364	44.7 140/313	40.5 128/316	40.1 121/301	37.1 112/302	35 108/309	37.6 85/228	23.6 50/212	42.1 45/107
HBs Ag +	2.6 1/39	2.3 1/43	0 0/60	1.7 3/181	2.4 7/290	1.9 6/318	3.4 12/355	2.2 8/365	0.3 1/313	2.5 8/317	2.3 7/302	1.7 5/302	1.6 5/309	0.9 2/226	9.4 20/212	0.9 1/107
HBs Ab +	25.6 10/39	25.6 11/43	10.8 4/37	13 18/138	8 20/250	11.5 10/87	12.2 14/115	3.8 10/262	3.9 4/103	2.2 2/93	2.6 3/116	1 1/105	2.3 3/132	2.9 3/104	2.6 2/76	2.9 2/68
HBc Ab +				16.7 1/6	9.4 5/53	18 12/81	5.8 6/104	0 0/82	4.9 4/81	0 0/80	0 0/4	2.2 1/45	0 0/6	0 0/83	0 0/55	2.0 1/49
% Needle Use (lifetime)	92.1 35/38	95.3 41/43	93.3 56/60	98 50/51	89.9 134/149	92 127/138	86.7 156/180	94.9 149/157	66.9 83/124	77.7 94/121	82.3 121/147	81.5 101/124	73.5 121/166	86.4 108/125	76.9 83/108	79.3 69/87
% Needle Use (past year)		50 5月10日	70 42/60	88.2 45/51	67.6 98/145	68.1 94/138	71.1 128/180	84.7 133/157	58.1 72/124	62 75/121	61.8 89/144	59.3 73/123	53.9 89/165	56.5 70/124	49.5 53/107	48.3 42/87
% Needle Sharing (lifetime)	84.2 32/38	88.4 38/43	67.9 36/53	97.2 35/36	81.3 109/134	78.9 101/128	58.9 99/168	61.8 97/157	48 59/123	55.4 67/121	63.4 85/134	62.3 71/114	47.8 76/159	67.2 84/125	60 63/105	65.1 56/86
% Needle Sharing (past year)		40 4月10日	32.7 17/52	52.9 18/34	45.8 60/131	68.1 94/138	37.3 62/166	37.6 59/157	35 43/123	30.6 37/121	28.5 41/144	25.9 29/112	17 27/159	23.4 19/124	19.2 20/104	16.3 14/86
「あぶり」の経験+ (lifetime)						30.3 47/155	53.4 93/174	59.9 94/157	59.6 74/124	71.1 86/121	65.5 97/148	63.9 78/122	63.4 104/164	67.2 84/125	68.9 73/106	64.4 56/87
「あぶり」の経験+ (past year)						20.8 32/154	48 84/175	45.2 71/157	61.1 66/108	56.2 68/121	55.4 82/148	53.3 65/122	57.4 96/164	57.6 72/125	52.4 55/105	48.3 42/87
注射が「あぶり」か (past year)																
注射						63.2 9	49.2 28.5	68.2 16.6	40.7 41.7	44.2 35.8	40.3 35.4	41.9 36.8	38.9 38.9	29 40.3	30.8 40.4	37.9 42.5
「あぶり」同程度						1.3 26.5	8.4 14	7.6 6.4	10.2 7.4	8.3 11.7	11.8 12.5	6.8 14.5	9.3 13	20.2 20.2	23.1 23.1	18.4 18.4
どちらもなし						26.5 155	14 179	6.4 157	7.4 108	11.7 120	12.5 144	14.5 117	13 162	20.2 124	23.1 104	18.4 87
n						155	179	157	108	120	144	117	162	124	104	87
調査施設数	関東1	関東1 関西1	関東2 関西1	全国6	全国7	全国6	全国6	全国7	全国7	全国6	全国6	全国6	全国6	全国6	全国6	全国5

これまでの推移(2)

②非医療機関の覚せい剤乱用・依存者(実数) 複数回の人間は初回をカウント

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
HIV Ab 検査数	4	9	11	33	35	18	37	42	43	26	38	26	48	24
HIV Ab +	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
HCV Ab +	25 1/4	44.4 4/9	9.1 1/11	53 7/32	48.6 17/35	38.9 7/18	40.5 15/37	31 13/42	32.6 15/43	23.1 6/26	26.3 10/38	26.9 7/26	29.2	37.5
HBs Ag +	0 0/4	0 0/8	0 0/11	0 0/33	0 0/35	0 0/18	0 0/37	2.4 1/41	0 0/43	0 0/26	2.6 1/38	0 0/26	0	0
HBs Ab +		0 0/8	10 1/10	12.1 4/33	11.4 4/35	5.6 1/18	12.5 3/24	10.3 3/29	15.4 7/43	18.8 3/16	14.7 5/34	11.5 3/26	10.4	12.5
HBc Ab +			10 1/10	12.5 4/32	14.3 5/35	11.1 2/18	12.5 3/24	17.2 5/29	23.1 10/43	6.3 1/16	11.8 4/34	11.5 3/26	16.7	16.7
% Needle Use (lifetime)	100 4/4	83.3 5/6	90.9 10/11	75.8 25/33	88.6 31/35	88.9 16/18	81.8 30/37	81 34/42	86 37/43	88.5 23/26	92.1 35/38	92.3 24/26	89.6	91.7
% Needle Use (past year)	75 3/4	50 3/6	72.7 8/11	42.4 14/33	65.7 23/35	38.9 7/18	45.9 17/37	40.5 17/42	34.9 15/43	19.2 5/26	28.9 11/38	42.3 11/26	14.6	12.5
% Needle Sharing (lifetime)	50 2/4	66.7 4/6	81.8 9/11	69.7 23/33	79.4 27/34	72.2 13/18	73 27/37	66.7 28/42	67.4 29/43	65.4 17/26	81.8 30/37	76 19/25	75	87.5
% Needle Sharing (past year)	25 1/4	33.3 2/6	54.5 6/11	36.4 12/33	54.4 19/35	22.2 4/18	32.4 12/37	16.7 7/42	20.9 9/43	3.8 1/26	18.4 7/38	23.1 6/26	8.3	12.5
「あぶり」の経験+ (lifetime)				71 22/31	60 21/35	72.2 13/18	56.8 21/37	64.3 27/42	55.8 24/43	61.5 16/26	60.5 23/38	52 13/25	64.6	66.7
「あぶり」の経験+ (past year)				37.5 12/32	34.3 12/35	38.9 7/18	35.1 13/37	14.6 6/41	11.6 5/43	3.8 1/26	10.5 4/38	15.4 4/26	12.5	8.3
注射が「あぶり」か (past year)														
注射				34.4 18.8	57.1 17.1	22.2 27.8	43.2 13.5	41.5 9.7	34.9 11.6	19.2 3.8	28.9 2.6	34.6 11.5	18.8 4.2	8.3 0
「あぶり」同程度				6.3	5.1	5.6	0	0	0	0	2.6	0	0	4.2
どちらもなし				40.6	20	33.3	43.2	48.8	53.5	76.9	65.8	53.8	77.1	87.5
n	32	35	18	37	41	43	26	38	26	38	26	48	24	
調査施設	全国1	全国1	全国2	全国2	全国2	全国2	全国2	全国2	全国3	全国3	全国4	全国3	全国5	全国5

平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
HIV 感染症の動向と影響及び政策のモニタリングに関する研究
分担研究報告書

外国人薬物使用者等の HIV 感染と行動のモニタリングに関する研究

分担研究者：中村亮介（東京都立松沢病院）

研究要旨 ①精神科に入院となった外国人患者について薬物乱用の有無や注射器・注射針の使用実態、性行動等 HIV 感染に関わるハイリスク行動を調査することによって HIV 対策の基礎資料に供する事を目的とした。②研究では首都圏に位置する公立精神科病院に入院となった外国人精神疾患患者を対象として、対象者の同意の下に調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。③2006 年に 2 名の HIV 感染者が確認されたがその前後 2 年ずつには感染者は見られなかった。④さらに、ここ数年の傾向として「風俗業」に従事していた女性患者が複数みられるようになっており、HIV 感染者のうち 1 名はこうして風俗業に従事していたものである。⑤諸外国の状況を見るに、薬物乱用・依存者の間に HIV 感染者が出現してから HIV 感染が蔓延するまでの期間は 2 年程度であり、「薬剤性精神病」として受診する、もしくは「急性精神病」として受診して後に薬物使用が判明する症例を含めて外国人患者を調査することにより、国内における HIV 感染の実態を知ることが、今後の動向を予測する上でも重要である。

A. 目的

首都圏に位置する公立精神科病院に入院した外国人精神疾患患者について HIV 感染を含めた STD 感染とそれら感染のハイリスク行動を調査する事によって HIV 対策の基礎資料とする事を目的とした。

B. 研究方法

首都圏に位置する公立精神科病院に入院となった外国人精神疾患患者を対象として、対象者の同意の下に調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清

学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。

C. 3 年間の目標

当該病院に入院となった外国人患者を漏れなく調査するのが理想ではあるが、対象は書面にての同意が得られる症例に限るものとして 100 例程度までは対応できる体制で臨んだ。

D. 研究結果と考察

2006～2008 年の期間中に 36 カ国 152 人

の入院があった（表 1）。表 2 に外国人患者の ICD-10 による分類を示す。この外国人患者における「全入院患者に対する薬物乱用・依存者の比率」は当該病院においては特別に高いものではないが、全国平均に比すれば例年高い比率を占めている。これは入院適応となる精神疾患のうち、国内平均では高い割合を有する不安定な病状を有した慢性期の統合失調症やうつ病の患者はあまり海外旅行には馴染まない、という事情も影響しているものと考えられる。

2006 年調査では、2 名の HIV 感染者が認められた（表 3）。以下に 2 症例について簡潔に記す。

[症例 1] 32 歳アフリカ女性

アフリカ某国にて出生・生育。地元で教師として就労していたが、2001 年幻覚妄想状態に陥り精神科に通院していたという。輸血歴なし。2006 年来日した。しかし直後より錯乱状態にまで陥り入院を要した。入院時の尿検査にて違法薬物の使用は否定され、本人および同行者からの情報として「性行動に逸脱なし」。これまでに HIV に関する検査は受けておらず、今回の「HIV 抗体陽性」という結果については帰国後に現地の医師から告知して頂くものとした。入院期間は 2 週間であり、HIV 感染に対しての治療を開始する予定が無かったので HIV 核酸定量などは未検。

[症例 2] 28 歳アジア系女性

母国内の大都市にて出生・生育。地元の高

校を卒業後美容師等の資格を取得。10 代後半からは日本に MDMA を密輸するマフィアとの交流を持つ。2001 年来日しホステスとして就労。「店外デート」などのサービスで時にはコンドーム無しでの性交渉に及ぶこともあったという。2002 年に結婚。飲酒量多く、暴れることもあった。さらに来日以後も「コカインなど」の乱用の経験あり。2006 年からみに情緒不安定となり自ら帰国を希望。自殺企図の反復があり、精神科入院を要す事となった。入院時の検尿では違法薬物は検出されず。HIV 抗体陽性、HIV 核酸定量： 3.6×10^3 コピー/ml [基準値： 4.0×10^3 以下]

この症例もこれまで HIV に関する検査は受けておらず、「HIV 抗体陽性」という結果については帰国後に現地の医師から告知して頂くものとした。入院期間は 3 週間。

いずれの症例も退院と同時に帰国たされた。症例 1 については母国での異性間性交渉による感染と考えやすいが、症例 2 に関しては感染時期が不明である。

表 4 に 1997 年以降の対象者数と調査結果の推移を示す。

E. まとめ

①精神科病院に入院となった外国人患者について、薬物乱用や注射器・注射針の使用実態、性行動等 HIV 感染に関わるハイリスク行動を調査することによって HIV 対策の基礎資料に供する事を目的とした。②研究では首都圏に位置する公立精神科病院に入院となった外国人精神疾患患者を対象とし

て、対象者の同意の下に調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。

③2007・2008年とHIV感染者は認められなかったが、2006年では2名の感染者が確認された。

④さらに、ここ数年の傾向として「風俗業」に従事していた女性患者が複数みられるようになっており、HIV感染者のうち1名はこうして風俗業に従事していたものである。

⑤「薬剤性精神病」として受診する、もし

くは「急性精神病」として受診して後に薬物使用が判明する症例を含めて外国人患者を調査することにより、国内におけるHIV感染の実態を知ることが、今後の動向を予測する上でも重要である。

F. 発表論文 なし

G. 学会発表 なし

H. 知的所有権の取得状況 なし

表 1

2006～2008 年の 3 年間における
外国人患者の国籍（実人数）

出身国籍	男性	女性	合計
韓国	20	20	40
中国	16	18	34
アメリカ	10	1	11
フィリピン	5	5	10
台湾	0	6	6
ベトナム	4	1	5
パキスタン	3	2	5
ブラジル	3	1	4
イギリス	3	1	4
ミャンマー	3	0	3
バングラデシュ	1	1	2
スペイン	1	1	2
ロシア	0	2	2
その他※	15	9	24
合計	84	68	152
平均年齢	37.7	34.5	36.3
	±11.6	±12.2	±11.8

※ 「その他」の内訳は

アイルランド、イラン、インド、インドネシア、キューバ、コロンビア、デンマーク、ニジェール、フィンランド、マレーシア、メキシコ、モロッコ、リトアニア、リベリア、ルーマニアの 15 カ国より男性患者が各 1 例

ウクライナ、オーストラリア、ガーナ、ザンビア、セルビア・モンテネグロ、タンザニア、ハンガリー、フランス、マケドニアの 9 カ国より女性患者が各 1 例

表2 外国人患者の ICD-10 分類 単位：人数

ICD-10	男性	女性	合計
F0 (痴呆性疾患)	4	0	4
F1 (精神作用物質性障害)	11	7	18
アルコール	7	1	8
覚醒剤	1	3	4
多剤併用	3	3	6
F2 (統合失調症など)	62	55	117
F3 (躁うつ病圏)	5	4	9
F4 (神経症)	2	0	2
F5 (拒食症・不眠症など)	0	0	0
F6 (人格障害)	0	2	2
F7 (精神発達遅滞)	0	0	0
F8 (自閉症など)	0	0	0
F9 (その他)	0	0	0
合計	84	68	152

表3 外国人患者の薬物乱用・性行動と血清検査学的検査の結果

単位：百分率 (括弧内に実人数を示す)

	男性	女性	合計
薬物使用歴	15.5 (13/84)	10.3 (7/68)	13.2 (20/152)
静脈注射歴	3.6 (3/84)	7.4 (5/68)	5.3 (8/152)
「風俗」経験	6.0 (5/84)	13.2 (9/68)	9.2 (14/152)
不特定多数との性交渉	6.0 (5/84)	5.9 (4/68)	5.9 (9/152)
同性愛	0 (0/84)	1.5 (1/68)	0.7 (1/152)
HIV 抗体	0 (0/84)	2.9 (2/68)	1.9 (2/152)
HCV 抗体	2.4 (2/84)	4.4 (3/68)	3.3 (5/152)
HBs 抗原	6.0 (5/84)	2.9 (2/68)	4.6 (7/152)
HBs 抗体	0 (0/84)	0 (0/68)	0 (0/152)
TPHA	1.2 (1/84)	1.5 (1/68)	1.9 (2/152)

平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
HIV 感染症の動向と影響及び政策のモニタリングに関する研究
分担研究報告書

自治体のエイズ対策関連施策のモニタリングと評価に関する研究

分担研究者 笠島 茂（国立保健医療科学院公衆衛生政策部行政政策室）
木原雅子（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻社会疫学分野）
木原正博（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻社会疫学分野）

研究要旨

本研究は、全国世帯調査によって評価した住民の HIV 感染症に対する啓発度の性・年齢別の分布を明らかにし、さらに、啓発度を向上させるために必要な関係予算の費用対効果を推定した。本研究班が作成した啓発度評価のための質問票によれば、男性の啓発度が女性に比べて高く、また、若年者ほど啓発度が高いことが示唆された。エイズ対策予算のうち、検査・相談関係と啓発度の間の費用対効果が大きく、啓発普及関係予算と合わせて、住民の啓発度を引き上げるための予想費用を計算した。今後、さらに、予防活動の質的内容を引き上げる研究の必要性和その方向を考察した。

A. 研究目的

HIV 感染症の予防対策事業にとって HIV 感染症に対する住民の啓発度を向上させることが必要であると考えられる（木原正博（2006）：地方自治体によるエイズ啓発プログラムのためのガイドライン）。ここで言う啓発は HIV 感染症の疫学的動向、診療、また、感染の経路や病態に関する知識の向上を含む。このような啓発度を住民の間で向上させることにより、エイズ対策事業がより効果的にすすみ、ひいては HIV 感染症の発生、予後、ならびに生活の質の改善につながる事が期待される。

しかしながら、これまで、HIV 感染症への住民の啓発度を把握するための指標が開発されていないこともあって、啓発度が評価されたことはなかった。従って、行政的施策が住民の啓発度の向上にどれだけ貢献しているのか客観的にモニタリングされることもなかったが、昨年、本研究班によって質問票による全国規模の調査が行われ、都道府県別の住民の啓発度を評価したので行政施策と国民の啓発度との関連性を評価することが視野に入ってきた。

本研究班は、昨年度、HIV 感染症に対する啓発度の都道府県別の平均水準と行政施策との関連性を詳細に検討した。本年度の研究の主要な目的は、（１）評価する啓発度を性・年齢などの人口学的要因を調整して比較可能性を高めること、（２）HIV 感染症に対する啓発度に及ぼす行政施策の影響を、啓発度の都道府県レベルでの平均水準ではなく、その個人レベルの水準にまで分析を進め、ならびに、啓発度に及ぼす行政施策の効果に係わるこれまでの調査結果を性別や年齢などの人口学的な要因を調整し、効果の比較可能性を高めることにある。

B. 研究方法

HIV/AIDS 関連知識に関する全国調査の質問票への回答結果から個人レベルの啓発度スコアを評価し、都道府県レベルで行われた行政施策が、個人レベルの啓発度に及ぼす効果を分析した。

（対象）